

# 保健婦だより

29

## 結核にご用心

昭和二十五年までは、死亡原因の第一位が結核（肺結核）でした。毎年十万人以上の人が死亡し、「国民病」と恐れられた結核も、薬の開発などの予防対策が功を奏し、昭和六十年には第十六位と、がん、心臓病、脳卒中などの成人病とは対照的となりました。今では「結核は生命を脅かす病気ではない」と、大多数の人が思いがちです。

しかし昭和六十三年に、新たに結核に感染した人が五万四千人もいたことを考えますと、いまだに広く深く潜んでいて、まだまだ安心できない伝染病であることに変わりありません。

## 感染と発病

結核は、結核菌という細菌によって引き起こされます。結核菌を持っている人の咳やくしゃみのしぶきから菌が空気に混じり、その菌を空気と一緒に吸い込むことから感染します。このようにして感染しますから、菌が肺で増殖し、最初の病巣をつくりまわります。この段階では、本人も気づかないうちに治ってしま

うことも多く、医学的にも発病とはいきません。この病巣から、さらに新しい病巣（二次病巣）ができたときを、肺結核の発病としてとらえています。この時期になっても治ってしまうこともあります。

しかし菌の増殖力が強い場合や、健康状態がすぐれない場合には、本格的な発病となります。また発病しなくとも、一生発病の危険を伴いますから、注意が必要ですよ。

## 自覚症状

軽症のころには自覚症状がありません。進展すると風邪のような咳が出てきます。風邪の症状に似ていますが、単なる風邪と思いがちですが、遅れてしまうことがあります。咳や痰、微熱、疲れ、だるさなど、一見風邪のような症状が長く続く時は、早めに医師の診察を受けましょう。

## 治療方法

結核の治療方法は、従来は「大気、安静、栄養」が唯一の方法

でした。しかし現在は、結核菌に効く薬が次々と開発・研究された結果、治療方法が著しく変わり、外来の通院治療が主流となっています。

結核と診断されても通院しながら治療できるようになりましたし、たとえ「入院の必要あり」と医師が判断しても、入院期間は従来と比べ著しく短縮されています。治療方法は格段の進歩をとげています。

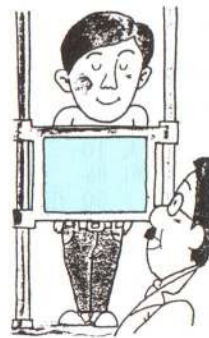
## 年一回は検診を

結核の発見に威力を発揮するのが、胸部レントゲン撮影です。結核菌が体内（主に肺）に侵入して病巣をつくると、レントゲ

ンフィルムに影となって現れますから、簡単にわかります。自覚症状がないため検診を面倒に思いがちですが、短時間で簡単に受けることができます。

※今年度も結核検診車が、市内各地を巡回しています。巡回日程など詳細は、後日チラシでお知らせしますが、近くに検診車が伺いましたら、積極的に受診してください。

問い合わせ  
保健センター ☎42-9055



## 市統計

### グラフィコンクール

テーマ・自由。ただし小学校3年生以下は、観察結果をグラフにしたもの。

資格・小学校3年生以下の児童、4年生以上、中学生、高校以上の学生・生徒、一般の各部

応募方法・中学生以下の部はB2判、高校生以上の部はB1判サイズの用紙とし、パネル仕上げやセロハンカバーは認めない。

締め切り・8月28日（火）  
応募及び問い合わせ  
企画調整課広報統計係  
☎49-3111（内線268）

## ちびっぴんギャラリー

### おじいさん

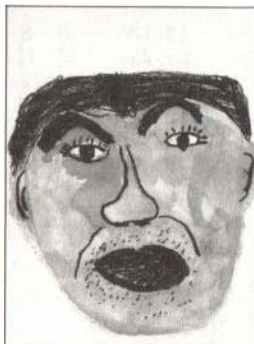
### 二井田保育所



いさわ あんなちゃん  
いたずらしたときおこるけどやさしいよ



あだち かずのりくん  
さかなつりにつれていってくれるんだ。



いさわ あんりちゃん  
こんどどこかへあそびにつれていってね。